



ショートコメント

★★★★

Data 2021-144

MONOS 猿と呼ばれし者たち

2019年/コロンビア・アルゼンチン・オランダ等合作映画
配給：ザジフィルムズ/102分

2021 (令和3) 年 11 月 13 日 鑑賞

シネ・リープル梅田

監督・脚本：アレハンドロ・ランデス
出演：モイセス・アリアス／ジュリアンヌ・ニコルソン／ソフィア・ブエナベントウラ／フリーアン・ヒラルド

みどころ

舞台は、時も場所も定かでない世界のどこか。MONOS (猿) というコードネームで呼ばれる8人の若き兵士たちは、そこでどんな任務を？

コロンビアの監督が、コロンビアの内戦と“FARC”を名乗るゲリラ組織を題材として、幻想的かつ大胆に感性を刺激する本作を完成！各種映画祭で絶賛された本作の出来は如何に？

『ランボー』シリーズとよく似た雰囲気の本作の魅力はタップリ！8人の若者(少年、少女)たちのキャラにも注目！しかし、肝心のストーリーは？MONOSたちの任務は一体ナニ？その見方によって本作の評価は大きく分かれるが、間違いなく一見の価値はあり！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆「007」はイギリスの諜報組織MI6の“殺しのライセンス”を持ったスパイのコードネーム。それと同じように、「MONOS (猿)」は“某国”の“某ゲリラ組織”である8人の若き兵士(少年、少女)たちのコードネームだ。

冒頭、世間から隔離された山岳地帯の中で厳しい訓練に励む傍ら、目隠しをし、耳を澄ませながらブラインドサッカーに興じる彼らの姿は無邪気そのものだ。しかし、彼らの任務は“博士”と呼ばれている人質のアメリカ人女性の管理だから、結構大変。それ自体が重大な任務だが、今日は司令部との連絡係である“メッセンジャー”と呼ばれる男から訓練を施されると共に、支援者から預かったという一頭の乳牛を預けられることに。牛乳を飲むのは自由だから、この支給はありがたいが、万一この乳牛に事故でもあれば大変なことに・・・。

◆本作はコロンビアの監督が、コロンビアで50年以上続く内戦と左翼ゲリラである“FARC”を題材として作ったもので、各種映画祭で喝采を浴びたもの。たしかに、「時も場所も定かでない世界のどこか」で繰り広げられる、“猿”と呼ばれし8人の若き兵士たち

の行動は興味深い。シルベスター・スタローンが主演した『ランボー』シリーズ（82年）、（85年）、（88年）、（08年）（『シネマ19』274頁）、（19年）（『シネマ47』107頁）は本作と同じような感覚の映画だったが、同作ではランボーの超人的な能力もさることながら、ランボーの立場や任務がはっきりしていたから、ストーリーの展開がハッキリと見えていた。しかし、本作は個々のシークエンスの映像の美しさと意外性、そして個々の俳優たちの演技とそれを引き立てる音楽は見事だが、肝心のストーリーがなかなか読み取れないから、その点でイマイチ。コロンビアのゲリラに拘束されているアメリカ人女性の救出と、それを阻止しようとする8人の若きゲリラ兵との闘い、という単純なストーリーでないのは幸いだが、ゲリラ内の二人の男女の結婚がメッセンジャーの“鶴の一声”によって許可されるという導入部のストーリーからして少しヘン。乳牛が誤って死んでしまったことをきっかけとして、本作の本格的ストーリーが展開していくが、アメリカ人女性の人質とそれを監視するゲリラとの接点や、ゲリラ内部での対立が次々に描かれるが、全体を貫くストーリーに一貫性がないのが、私には大きな不満だ。

◆本作後半には、ゲリラに対する本来の敵からの襲撃も起きるし、米軍ヘリによる人質救出作戦も登場する。他方、そんな“大展開”とは別に、人質自身の知恵と工夫による脱走の成功や、支配者然としたメッセンジャーに対する反抗など、本作にはいくつかの“小展開”があり、それ自体も興味深い。しかし、あまりに多くの、そんな小展開が続くと、そのコケ脅し的な演出と音楽にも少し飽きてくる。

しかして、本作ラストは如何に？それは、あっと驚く尻切れトンボ状態(?)になるので、それにも注目！さあ、あなたの本作への賛否は？

2021（令和3）年11月30日記